



▲うまく割れるかな？（文化センターの地域まつりにて）

平成20年第2回定例会 府中市宮住宅条例及び府中市高齢者住宅条例の 一部を改正する条例など12議案を審議

平成20年第2回定例会は、6月9日から24日までの16日間の会期で開催されました。

市長提出議案は、府中市宮住宅条例及び府中市高齢者住宅条例の一部を改正する条例など9件を審議した結果、可決6件、同意3件となりました。

議員提出議案は、介護保険サービス従事者の人材確保に関する意見書など3件を審議し、すべて可決されました。

陳情は、8件が審議されました。

今定例会で市長から、「府

中市宮住宅条例及び府中市高齢者住宅条例の一部を改正する条例」についての議案が提出されました。

この議案は、市営住宅及び高齢者住宅から暴力団員を排除するため、入居資格等を見直すことに伴い、所要の改正を行うものです。

主な改正点は、入居資格に入居者及び同居者が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律に規定する暴力団員でないことを追加することや既存入居者が暴力団員であると判明したときは、当該入居者へ、当該市営住宅等の明渡しを請求できることとするものなどです。

意見書

◎介護保険サービス従事者の人材確保に関する意見書

介護保険制度の持続性を確保することは、高齢者とその家族の人生を守ることにもつながるものであり、そのための積極的な対策を講じることが、喫緊の重要課題である。

よって、本市議会は政府及び都に対し、過酷な労働環境のために介護従事者の離職が顕著であることから、介護サービス維持・向上のため、また介護従事者が希望を持って働くことができるよう、介護従事者の待遇改善を見据え

厚生経済委員会が審査され、

委員から、「暴力団員であるか否かの判断については、警察の責任ではあるが、市も慎重に対応してほしい」、「この条例改正は、町田市の事件を背景に各自自治体を取り組んでおり、公営住宅の在り方として当然である。また、市民としても、仮に近隣の市営住宅に暴力団員がいるのであれば不安であるので、本条例によって規定すべきであるが、既存入居者へは周知を徹底し、不安をおおることのないよう適切な対応を要望し本案に賛成する」等の意見がありました。

審査の結果、本案については、全員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決定し

た適正な介護報酬の設定を行うことなど3項目を要望する。

◎子宮頸がん予防ワクチンに関する意見書

死亡率の高い子宮頸がんの特徴は、原因のほとんどが、ヒトパピローマウイルス（HPV）による感染であるという点である。

このHPV感染を予防するワクチンの研究開発が進み、80力国以上の国で承認されている。つまり、子宮頸がんは「予防可能ながん」ということになる。しかし、まだ日本では承認されていない。

本市議会は、政府に対し、子宮頸がん予防ワクチンの早

人事議案

定例会最終日の本会議に市長から副市長、固定資産評価審査委員会委員の選任の同意を求める議案と人権擁護委員候補者の推薦の同意を求める議案が提出され、次の方々が同意されました。

- 副市長 中島 信一氏(70歳)
- 固定資産評価審査委員会委員 小林 整司氏(70歳)
- 人権擁護委員候補者 齋藤 茂一氏(62歳)

期承認に向けた審査を進めることなど、3項目を要望する。

◎「協同出資、協同経営で働く協同組合法」の速やかな制定を求める意見書

日本では、協同出資、協同経営によってともに働くという協同組合を規定する法律がまだ存在していない。

本市議会は、国会及び政府に対し、新しい働き方や働く場の創出を通して、少子高齢社会に対応し、地域の活性化を図り、格差社会の是正に貢献する制度として「協同出資、協同経営で働く協同組合法」を速やかに制定するよう要望する。